

(1) 明石六橋附近 (昭和七年度施工)

明姫國道改良工事概要

内務省神戸土木出張所長 高西敬義
工學博士

沿 革

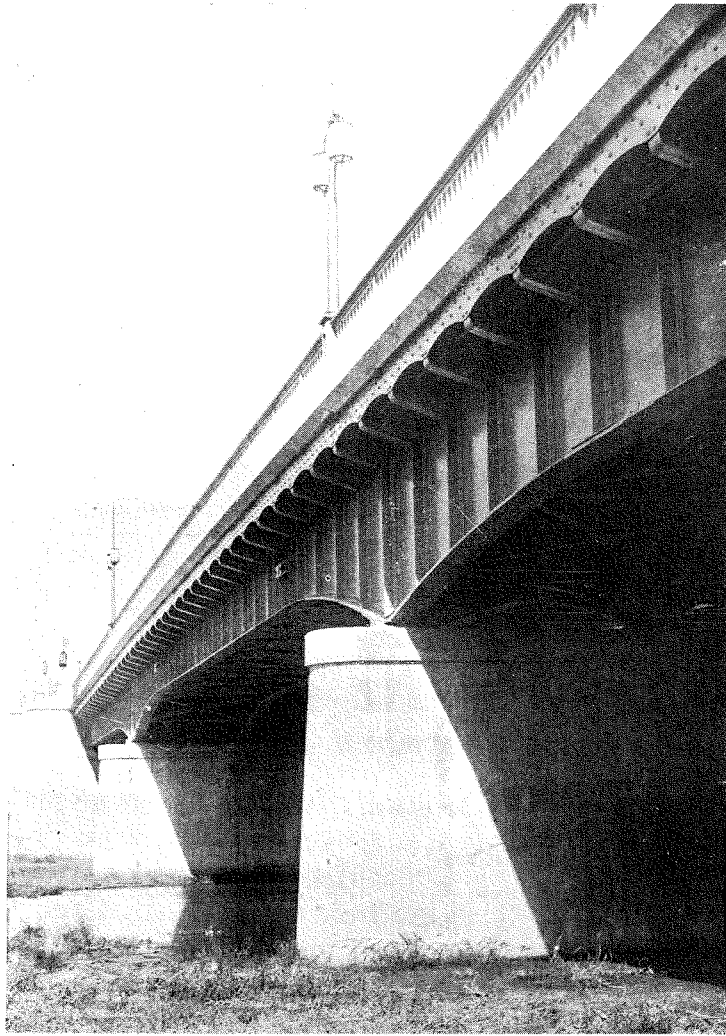
國道二號線は商工都市大阪を離れ阪神國道となり神戸を過ぎて神明國道となるが之が更に西に走り明石姫路兩市を結ぶ路線即ち明姫國道と稱す。

此の沿線には千古の史蹟名所多く殊に所謂播州松巡り名所を控へ史家探勝客、賽人の往來四時絶ゆるなく又往時より西國街道として交通の要衝に當り我國交通上の動脈たり。

而して明石、姫路兩市及沿線町村の發展に連れ年々交通の繁劇を加へつゝありし折柄阪

神、神明兩國道の竣功に伴ひ特に自動車交通の激増を見るに至れり。

然るに此の兩市を連絡する唯一の現在國道は幅員狹隘而も屈曲、急勾配の箇所多く橋梁の構造も亦重荷に耐えず殊に附近に官私設鐵道の敷設さるゝや之と平面交叉する所數箇所及び繁激なる交通に多大の支障を及ぼすのみならず危険日に加はるの状態にして路面は此の頻繁なる交通と著しく増加する自動車の重荷に堪へず年々之に巨額の修繕費を投ずるも何等の効なく且つ軍事上よりも之が改良は一日も忽にする能はざるに至れり。



(2) 明石大橋(昭和七年度施工)

茲に於て兵庫縣は夙に之が改築計畫を樹て即ち神明國道の終點明石市上水町より姫路市平野町に至る延長34,272.4米(8里26町9.8間)間を昭和4年度より同11年度に至る8箇年度に總工費4,014,000圓餘を以つて舗裝道に改良することゝし昭和4年1月14日付兵庫縣知事より申請同年8月2日内務大臣の認可を經、縣に於ては着々之が準備を進めつゝありしが昭和6年度に至り國道改良工事を失業救濟事業として内務大臣に於て直接施行することゝなり當國道は之を内務省大阪土木出張所にて管掌

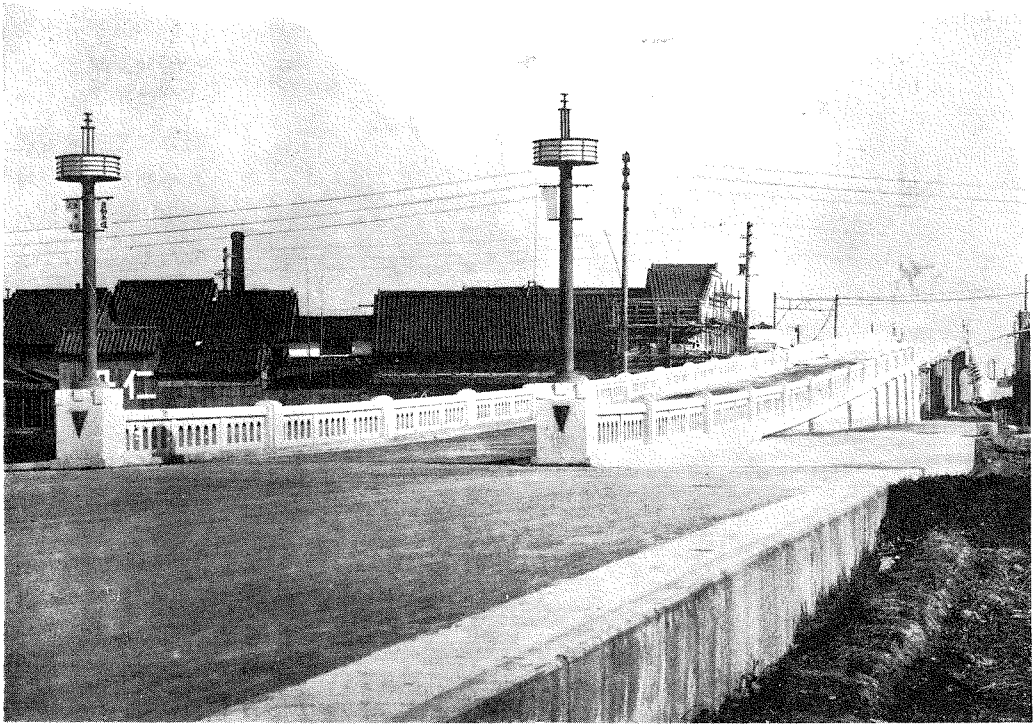
し此の區間の内先づ昭和6年度には支障物少く1箇年限りにて完成可能なる明石郡林崎村和坂より加古郡氷丘村平野迄16,522.4米間を總工費1,047,000圓の豫算を以つて施行することゝなり昭和6年4月8日明石市相生町二丁目元明石郡衙階上を兵庫縣より借受け兵庫國道改良事務所を開設せり。

次で昭和7年度には7月1日より内務省土木出張所分掌區域變更せられ當國道改良事務は内務省神戸土木出張所分掌することゝなり大阪土木出張所より引繼を受け殘務を施行處理すると共に新に昭和7年度には産業

開發事業として明石市上水町より明石郡林崎村和坂に至る及印南郡米田町平津より同郡阿彌陀村北池に至る兩區間5,560米間を總工費750,000圓の豫算を以つて施行することゝなり其後35,000圓の豫算追加を得たり。

昭和8年度には新に時局匡救事業として之と接續する部分即ち印南郡阿彌陀村北池より飾磨郡花田村一本松(市川左岸)に至る7,626米間を總工費600,000圓を以つて施行することゝなり目下折角施工中なり。

市川橋梁及市川右岸より姫路市平野町に至



(3) 明石市内高速低速度分岐点附近(昭和七年度施工)

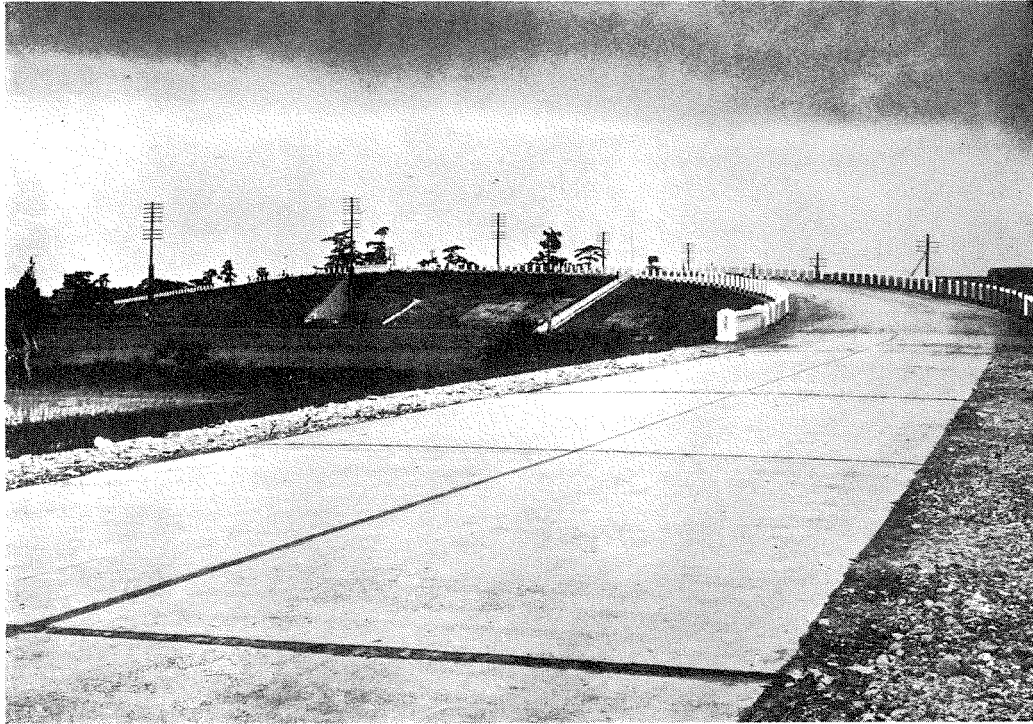
る約 2,200米間は次年度に施行し茲に兵庫縣にて既に改良せる國道起點に連絡せしむる豫定なり。

計 畫

改良路線】 神明國道終點(明石市上水町)を起點として半徑 120米にて右折し明石川を渡り高速車道、低速車道に分れ前者は高架橋となり、山陽電鐵軌道を跨線横斷し後者は之を平面交叉して何れも西方に向ひ西新町に於て合し明石郡林崎村に入る。同村和坂を上り半徑 500 米にて右折し山陽本線を跨線し直ちに半徑 260米にて左折此處より舊國道に沿ひ溜池、神社、人家を避け大久保村、魚住村を経て加古那平岡村に至り、同村土山にて半徑350米にて左折再び山陽本線を跨線し半徑 500mにて右折野口村を経て氷丘村に入る、同村平野に於て播丹鐵道高砂支線と平面交叉し兵庫縣に於て既に改良したる道路に連絡し加古川

町を経て加古川橋を渡り 印南郡米田町に至る、同町平津に於て半徑 500米にて左折し西方に向ひ神爪に於て半徑 300米にて右折し阿彌陀村に入り三度山陽本線を跨線横斷し半徑 300米にて左折魚橋部落の南を過ぎ阿彌陀部落の北側を通り蓮池附近に於て半徑 500米にて右折殆んど直線にて別所村を過ぎ飾磨郡御國野村に至る、同村御着の北方を通過し天川を渡り國分寺部落の北方約60米の地點を經、花田村に至り市川橋下流約40米の箇所にて市川を渡り姫路市に入る、同市神屋町にて省線播但線を高速車道は跨線し低速車道は平面交叉にて西方に向ひ囊に兵庫縣に於て改良せる國道の起點に接続するものとす(附圖参照)
【道路工事】 幅員 明石市内起點より明石川間延長188.90米は17.30米とし歩車道を區分し境界下水を設け車道は10.00米、歩道は3.65米とす。

明石川より西新町市郡境界間423.50米 及姫



(4) 平岡跨線橋附近(防護網取付・昭和六年施工)

路市内省線幡但線跨線橋附近は16.0米にして中央高速車道を6.0米兩側低速車道及人道を4.50米とす、郊外地は全幅員を10.0米有効幅員9.0米とす。

曲線 最小半徑120米とし明石市起點附近にのみ存し他は260米を最小とす。

縦断勾配 最急勾配を4%とし高架橋前後のみにして他は最小を3%とす、而して勾配の變移する所に適當なる縦断曲線を設く。

横断勾配 車道瀝青混凝土鋪裝部分 $1/35$ 、混凝土鋪裝部分 $1/50$ とし何れも拋物線形の弧形を附す、歩道は $1/60$ の勾配を附す。

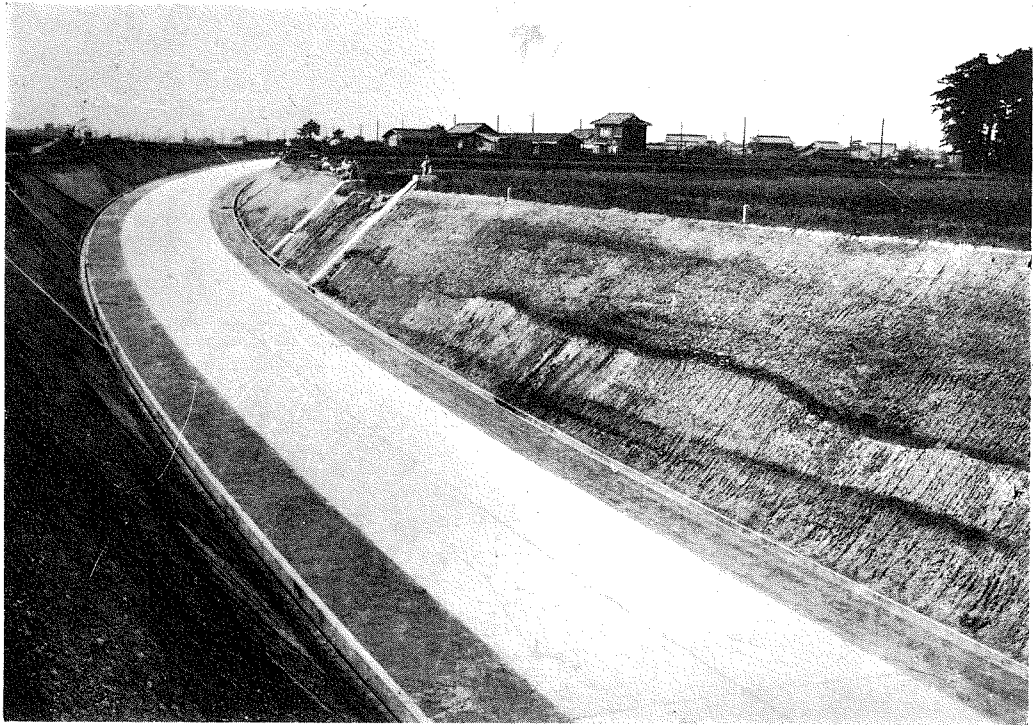
鋪裝 市街地車道は厚15.糎の「セメント」混凝土基礎の上に表層5.糎の瀝青混凝土を鋪設するものとす。

郊外地は中央6.0米を厚15.糎乃至20.糎の二層式「セメント」混凝土又は膠石鋪裝とす。尙交通量の多き部分は中央鋪裝の兩側に混凝土厚10.糎又は12.糎の基礎の上に「シールコー

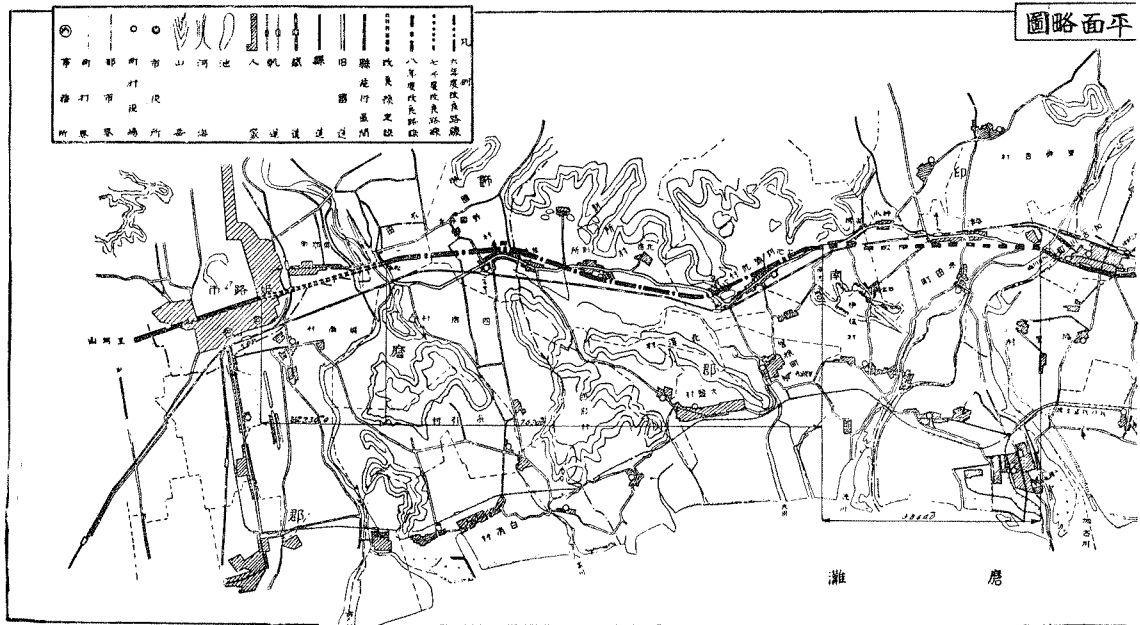
ト」を施すものとす、目地は横断目地のみを設け厚12.糎の「エラストイト」又は之に類似品を挿入す。

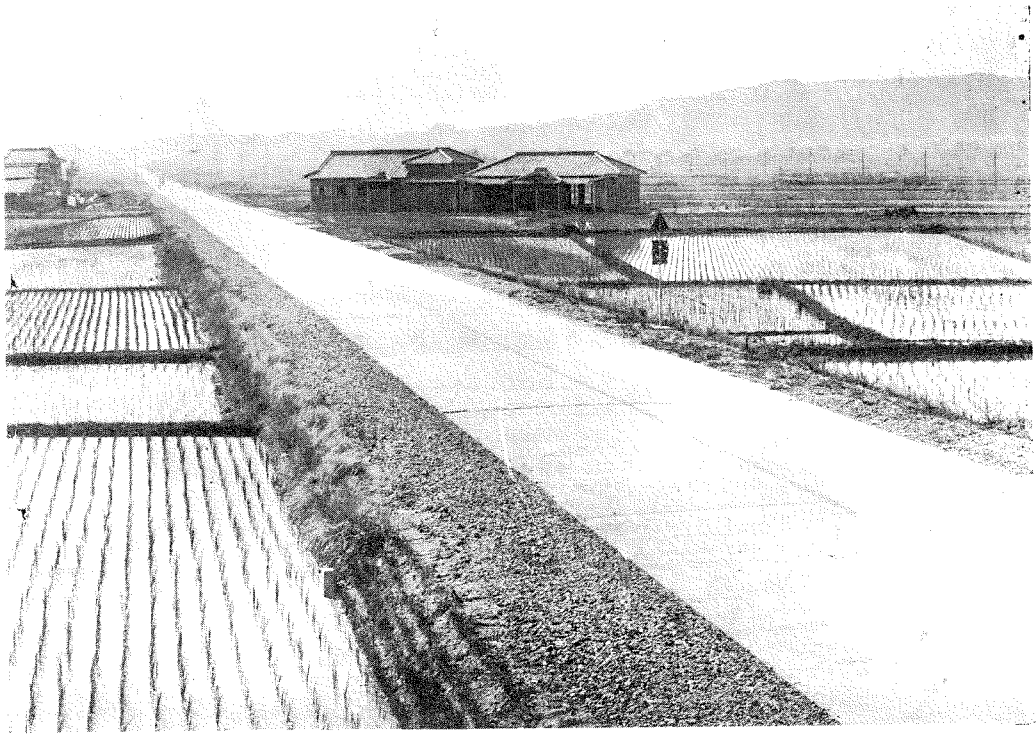
雜工事 本計畫道路と既設道路水路等の交叉箇所及本工事の爲め必要を生じたる軌道踏切設備等は其の効用を妨げざる限度に於て夫々適當に施工するものとす。

【橋梁工事】 橋梁は橋長60.米以上のものは有効幅員を13.米とし之れを車道及歩道に區別す、而して60.米以下のものは道路有効幅員と同一とす。幅員13.米のものは車道9.米歩道各々2米とし其の構造は橋臺、橋脚共地質に應じ適當なる基礎工を施したる後混凝土又は鐵筋混凝土とし、橋體は鐵筋混凝土又は鋼鈹桁とす、橋面は鐵筋混凝土床版の上に瀝青「ブロック」又は膠石鋪裝をなす、高欄は石、鐵筋混凝土又は鐵材を以て構造し主要橋梁には照明設備を施すものとす。(以下次號)



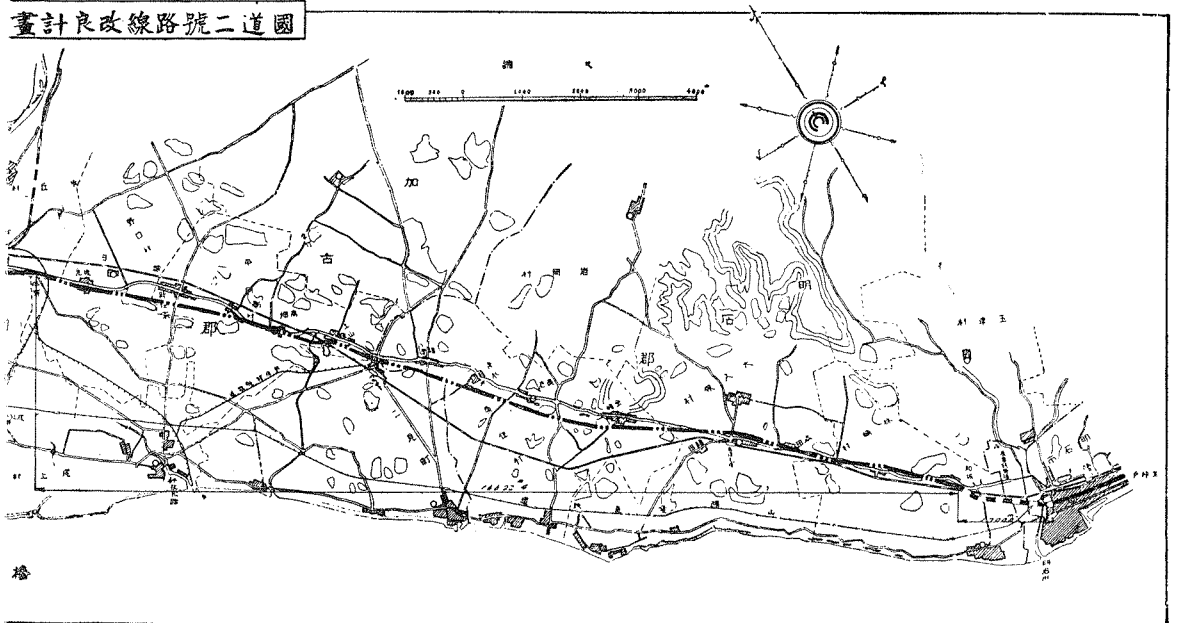
(5) 林 崎 村 和 坂 附 近 (昭 和 七 年 度 施 工)

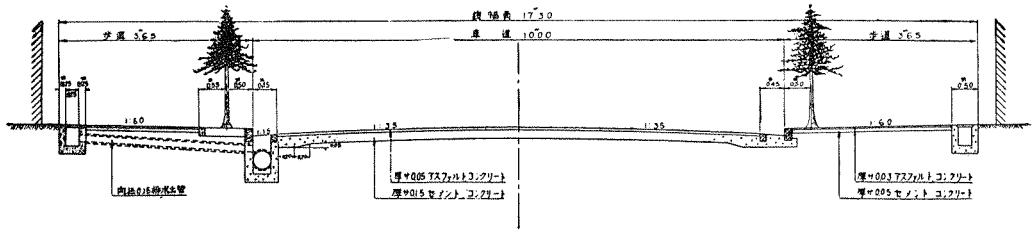




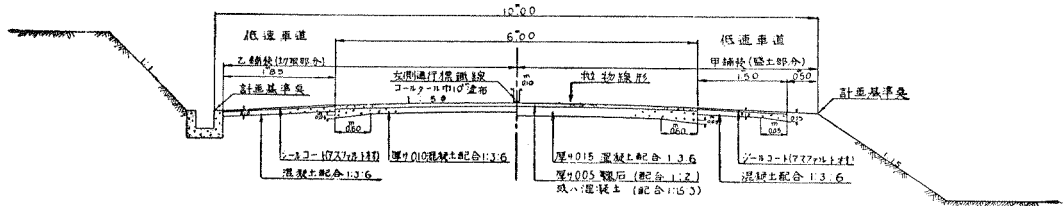
(6) 大久保村地内(兩側砂利敷・昭和六年度施工)

畫計良改線路號二道圖

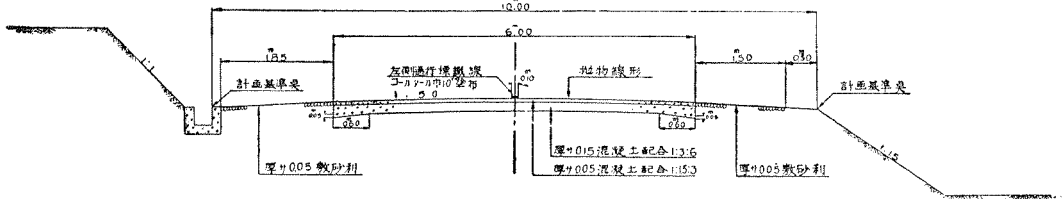




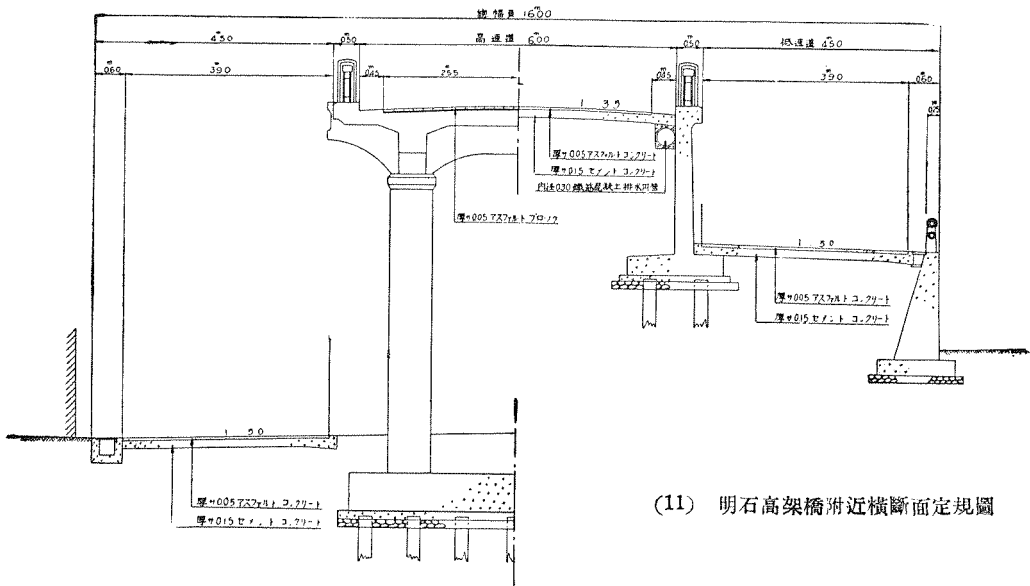
(8) 明石市内横断面定規圖



(9) 郊外地横断面定規圖(1)



(10) 郊外地横断面定規圖(2)



(11) 明石高架橋附近横断面定規圖